様式２

学校名：八千代町立西豊田小学校

学校の特色ある活動（Ａ４判　１枚）

（特色のある活動テーマ）　例:薬物乱用防止教育、防災教育 等

いのちを学ぼうWEEK（救命教育、生命の安全教育、防災教育）

1　これまでの課題と活動のねらい

(1) 課題の把握と設定状況

近年、子供の命に関わる重大な事件が多発しており、少子化、都市化、情報化等の社会の急激な変化は、子供たちに様々な影響を与えている。また、 子供たちの社会性が不足していることが指摘されるようになり、人とうまく関わることができない子供が増えてきていると言われている。

本校でも小さなけがで不安を訴える児童や、不定愁訴で繰り返し保健室に来室する児童と接する中で、人間関係づくりの不得手な子や自尊感情の低い子が増えていると感じる。また、児童の中には基礎疾患を持つ子が数名おり、救急搬送した事例もある。すべての児童にとって安心安全に学校生活を送ることは最も重要であると考える。そこで、教職員には、救急体制の確立や万一の危機発生時にはその被害を最小限にくい止めるために、全教職員の危機意識の向上を図る研修を行い、児童には、自他の命を大切にすること、命を尊ぶことのできる豊かな心を育てることを目的として、本テーマを設定した。

(2) 活動のねらい

○　自他の命や体、心を大切にし、望ましい人間関係や自尊感情を育むため

○　児童が自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、「自分の命は自分で守る」という資質や能力を育てるため

○　教職員の救急体制の確立と危機意識の向上を図る。

2　計画と実践の状況

(1) 計画

年間計画に３回、命を学ぶ一週間があり、その期間に担任や養護教諭が発達段階に応じた「救命教育」と「生命の安全教育」「防災教育」の指導を行う。

○　５月（運動会前）救命救急

○　６月（水泳指導前）生命の安全教育

○　９月（防災の日以降）防災教育

○　11 月（授業参観時）防災教育（マイタイムライン）

(2) 実践の状況（別添資料）

3　成果と今後の課題

(1) 成果

救命教育を行い、児童に「学校内で倒れた人を見たら心停止かも！」と考えるよう指導した結果、友達の命を守るために自分が果たすべき役割を考える力を育てることができた。また、救急体制を整えることは、児童の命を守るだけでなく、教職員も守ることになった。研修を重ねることにより教職員の力量が高まり、教職員や児童が取るべき行動を明確にすることができた。

○　学校評価アンケート（子どもの自己評価　４段階評価）

自分の命を守る行動をしているか。Ｒ４.12月：3.7ポイント→Ｒ５．７月：3.9ポイント

(2) 今後の課題

発達段階に応じた学習・体験、事後の振り返り等から新たな課題を発見し、テーマや内容・教材・学習方法を検討し、指導を改善していくことが必要である。

また、生き方についての価値観や考え方は多様であり、子供たち一人ひとりの家庭環境も様々であるので、実践に当たっては個々の状況を十分に考慮した上で、家庭・地域からの理解や協力を得る必要がある。

実践の状況（別添資料）

＜救命教育＞

「Team いばらき 発達段階に応じた救命教育プロジェクト」で製作した「救命教育学習指導案」を活用し、指導した。

２年生：「生きているしるし」をさがせ！（養護教諭と担任のTTで実施）

「いき」をしているかの確認や「しんぞう」が動いているかの確認をする際、胸やおなかはどうなっているか、自分や友達の胸やおなかに手を置いて感じてみるという共有の体験を行った。児童は自分の胸に手を置き、「ドキドキしている。」「先生、ここ触って。」と、生きているしるしを見つけ、大喜びだった。

１年生：「あんぜんなのはどっち？」（養護教諭が単独で実施）

「よつばくんといかのおすし」の紙芝居（パワーポイント資料）を読み聞かせ、いかのおすしの合い言葉の確認をした。

＜生命の安全教育＞

文部科学省作成の資料及び動画、動画教材用の手引き、動画を使用した授業展開例の資料を使用し、学年の実態に応じて指導を行った。「水着で隠れている部分は自分だけの大切なところ」とあり、それを「プライベートゾーン」としている。「自分のプライベートゾーンは見せない、触らせない。他人のプライベートゾーンは見ない、触らない。」とある。養護教諭としてプライベートゾーンの話をする際、プライベートゾーン以外の部位「水着で隠れる部分のみ」が大事であるという伝え方にならないように注意し、「あなたのからだはあなたのもので、全部大切なんだよ。」と説明をした。

6年生：生命の安全教育（養護教諭が単独で実施）自分と他の人の距離感について

ちょうどいい距離ってどこまでという指導内容の際、実際に色テープ（５０ｃｍ、１ｍ、２ｍ）を用い、視覚的に捉えられるようにした。「体の距離については、自分の体は自分のものだから、自分と他の人との距離は自分で決めていい。心の距離についても自分の気持ちや考え方は自分のものだから、どんな気持ちをもって、どんな考え方をするのかは自分で決めていい。」と指導をした。

＜防災教育＞

全校児童：関東大震災について学ぼう（保健員会児童によるオンライン集会）

東京管区気象台の子ども向け特設サイト「関東大震災についてまなぼう」の資料を活用し、保健委員の児童から全校児童に向け、パワーポイントを用い説明を行った。どんな地震だったのか、どんな被害があったのか、というような関東大震災の内容だけでなく、「緊急地震速報を見たり聞いたりしたら、あわてずにまず身の安全を確保しましょう。」と呼びかけ、実際に緊急地震速報の音を流し、災害に備える機会とした。

全校児童：「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」（各担任が実施）

気象庁防災啓発ビデオを使用した。

積乱雲が近づいてきたサインに気づかなかったことや、自然現象の恐ろしさに対する油断があったことが原因で、子供たちが次々に災害に遭ってしまうという内容の動画である。動画を視聴することで、なぜ映像の子供たちは危険な目にあってしまったのか、どうすれば身を守れるのかを考えた。

視聴後には、低学年児童は紙媒体、高学年児童はタブレットで、ワークシートの設問に答えを書きながら、正しく理解できたかどうかの確認をした。

5年生：「マイ・タイムライン」をつくろう（八千代町消防交通課職員を招いて実施）

マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を使用し、親子で指導を受けた。

マイ・タイムライン作成のためのチェックシートには、洪水ハザードマップや浸水想定区域図などでチェックの項目があり、「あなたの住んでいる場所の浸水深は何メートルか？」「あなたの住んでいる場所の浸水継続時間は何時間か？」ということが書かれている。講師の職員の方は、実際の八千代町のハザードマップも児童数分用意してくださり、親子でハザードマップを見ながら確認をし、チェクシートに記入ができた。

また、資料の中には「川の水が氾濫」するまでの主な備えについて、自分たちがどんなふうに行動するのか、並べかえをするものがある。そのシートにはクイズもあり、子供たちが考えるためのヒントになっていて、楽しみながらも真剣に取り組むことができた。